

令和7年度 第1回 えちぜん鉄道活性化連携協議会 議事録

日 時： 令和8年2月17日(火) 10:00～11:30
場 所： 福井県織協ビル6階602号室
出席者： 別紙出席者名簿のとおり
資 料： 別紙資料のとおり

開会

1 会長挨拶(勝山市 水上市長)

2 議事

規約第8条第2項により、座長が会議の議長となって議事が進行された。

報告(1)乗車実績等について

えちぜん鉄道より資料説明(報告(1)資料参照)

<質疑応答>

委員

フェニックス田原町ラインの利用状況があまりよくない。当初のブランディング的なところは、今となってはあまり効果がないという状況なのか。

えちぜん鉄道

もともと中心市街地活性化の事業の1つとして、福井鉄道と相互乗り入れを実施している。鷲塚針原駅から福井鉄道の線区に入る速達性と運賃割引をしっかりとアピールして利用者を確保してきた。人材不足の影響で、以前福井鉄道がダイヤ改正を行い減便した際に全ての便が福井駅に入ることになり、速達性が損なわれ、学生利用者が減少していると思われる。そういった中で、福井鉄道は今年ダイヤ改正にて従来の直通便を戻すダイヤを組まれているということで、共同で相互乗り入れ便の利用者を増やしていきたい。

委員

昨年度結成された鉄道協会について、割と内々な活動実績だと感じるが、外側に広がるような展開は考えているのか。

えちぜん鉄道

鉄道協会では、誘客・利用促進事業を実施しており、昨年も鉄道フェスタを開催した。次年度もイベント関係の実施を予定している。また、3社で通勤定期キャンペーンを検討しており、通勤利用者の利用促進を図る取組を実施する。人材確保の面でも連携していく。

委員

鉄道協会という新しい取組が福井ではじまったので、一般市民・利用者の方々にも伝わるような発信をしていってほしい。フェニックス田原町ラインもネーミングや料金設定等、鉄道2社が繋がる全国でも珍しい取組であったので、ブランディングを意識してやっていただきたい。

えちぜん鉄道

今年、相互乗り入れ10周年ということで、福井鉄道と企画を検討して、もう一度打ち出していきたいと考えている。

委員

I C O C Aの利用を推進する上で、割引があると良いのではないかと思うが、それが対応可能な状況にあるのか教えて欲しい。

えちぜん鉄道

今導入しているシステムでは、別途割引を盛り込むことはできないことになっている。例えば、当社でサポーターズクラブの2割引ということを見せていただいているが、I C O C Aで割引することは不可能な状況である。I C O C Aはあくまで通常利用という現状である。

委員

システムをバージョンアップすれば可能ということか。

えちぜん鉄道

I C O C Aは全国的なシステムなので、個別の割引を入れることは非常にやりにくい。I C O C AはJ R西日本さんがWESTERポイントを導入しており、西日本一律のポイントサービスである。独自のサービスを入れることに問題があり、その代わりに全国一律のサービスを受けることができるということである。

委員

サポーターズクラブについてコメントがありましたが、現状どのような割引になっているのか説明してください。

えちぜん鉄道

I C O C A導入後、会員制度を変更している。まず、通常割引を受ける通常会員は1割引になります。現金での乗車になるが、1日フリー切符も購入可能である。同じ割引会員で65歳以上の方は2割引としている。I C O C A導入後、新しくグリーン会員というものを設けており、頻繁に乗らない方や定期利用の方、I C O C Aを持っているがえちぜん鉄道を応援したいという方向けに、割引は受けることはできないが、1日フリー切符を2枚付与させていただいている。また、加盟店の特典と当社が実施するツアーの割引は両方とも受けることができる。

他に意見がないことを確認し、報告(1)終了

報告（２）国への要望の実施について

事務局より資料説明（報告（２）資料参照）

< 質疑応答 >

委員

地域鉄道の課題は全国的な問題であり、県としても毎年重要要望活動をしている。今年度から、今まで重点要望項目であったものを最重点項目にあげ、北陸新幹線や原子力と同系列で要望しており、それぐらい大切な事項であると考えている。

先ほどの報告１で、ちょうど１年前に落石事故が発生しましたが、特に安全確保に係る補助については、十分な確保をお願いしたい、さらに、隣接する民地、民有地の法面の対策にも補助を拡大して欲しいということをお願いしている。補助対象の拡大はなかなか難しいと思うが、中部運輸局や本省、地元選出の国会議員にもお願いしている。

引き続き新年度に入ったら、昨年７月に要望に行っているようだが、県は５月に行っているの、連携協議会においてもあらゆる機会を使って、早くいっていただきたいと要請させていただく。

事務局

要望活動の内容や時期に関して、事務局の中で話し合っ来年度の要望活動を実施してまいりたい。

委員

協議会からの要望については、局でも受けており、こちらからも改めて本省に伝えさせていただいている。来年度の予算方針が出ているので参考までにお話させていただく。

基本的には、令和７年度補正予算と令和８年度当初予算での配分を予定しているが、前年度と同等の要望を受けている。概ね要望いただいている形で満たせるのではないかと見込んでいる。令和８年度予算が成立していないため、少し遅くなる可能性がある。

車両関係について、若干配分されない事業者があるが、再構築事業を実施していると満額とは言わないが、優先配分されることになっている。

また、新たに観光庁の補助でローカル鉄道観光資源活用促進事業とパークアンドレールライドによる観光地の混雑緩和事業というものが新しく創設される予定である。

パークアンドレールライドによる観光地の混雑緩和対策事業は、インバウンドでの観光地の混雑緩和対策の補助金であり、パークアンドレールライドによる駐車場の整備や既存駐車場の利用促進に係る駅の改修や増便等を補助対象としている。現在、要望調査を実施している。

ローカル鉄道観光資源活用促進事業については、地域ぐるみでのインバウンド誘致のために、インバウンド受入れに対応した施設等の整備で、観光列車や車両、線路設備の整備も対象となっている。こちらは既に要望していただいたものへの配分ということになっており、令和８年度に改めて要望調査を行う予定はない。

委員

災害に対しての補助については、特段新しいメニューはないということか。

委員

災害の方は、特に改めてという話は聞いていない。

委員

県とうまく連携しながら、しっかりと国の方にも要望するように進めていただけると良い。

他に意見がないことを確認し、報告（２）終了

報告（３）えちぜん鉄道交通圏地域公共交通計画主要施策の進捗状況について

事務局より資料説明（報告（３）資料参照）

< 質疑応答 >

委員

11ページ（カーフリーデー）について、内田委員から何か補足があればお願いしたい。

委員

福井県、福井市、福井市社会福祉協議会、その他の団体、交通事業者、京福バス等、約10団体の協力をいただいた。バス協会さんにはバスの乗り方教室を行ってもらい、毎回非常に賑わっている。少しでもモビリティ・マネジメントという形で、公共交通を車に頼らない生活に親しんでいただこうと取り組んでいる。今年もまた9月19日に新たな手法で開催したいと思いますので、ご協力をお願いします。

委員

皆さんの力と連携で成り立っているイベントかなと思う。来年で20回になる。全世界で開催されているカーフリーデーだが、福井は市民団体が手を挙げて地元自治体や事業者を巻き込んでやっている珍しい形のイベントのやり方である。それが20年続くことは、大変すばらしい取り組みかなと思っている。

委員

10ページの下段のナンバー47、通勤通学での利用促進ということで、県もクルマに頼りすぎない社会づくり推進県民会議の事務局を持っている。パークアンドライド駐車場は大分整備されていると思うが、利用状況はどうなっているのか。統計は取りにくいのか。

えちぜん鉄道

利用状況について、今は確認していない。ただ、おかげさまで多く利用されているようで、次年度に増設を検討している場所もある。

委員

今、福井駅周辺でアリーナ整備とか、色々と進んでおり、駐車場の問題もあるので色々な活動を一緒に進めたいと思っている。

委員

3ページの指標について質問させていただく。これはあくまで令和6年度の実績であるが、気になるのが指標4番目の故障等部内原因による鉄道の遅延障害件数である。増加傾向にあり、現状を補足説明して欲しい。

えちぜん鉄道

部内原因に関しては、車両の故障が一番多い。製造されてから40～70年経過した車両を使用しているので、色々な装置において故障が発生しており、部内原因の中でも一番の割合を占めている。故障に対する再発防止策として、他社のよく似た事例とか、社内でも同じ故障が発生した場合の対策を決めながら、少しでも安定した運行ができるように努めている。

委員

インフラの老朽化という原因が大多数だと思うが、先ほど事務局から説明のあった再構築事業では車両の更新等は可能なのか。

委員

車両の更新自体は通常の補助金でも対象となり、再構築事業の中でも先進車両という条件は付くが、補助対象となっている。

委員

車両本体であるとか、それ以外のインフラは更新しにくい現状があるのではないかと。

えちぜん鉄道

車両の更新等は、時間と費用が通常の設備以上に要する。その中で新型車両の場合、設計から入ると3年以上の期間を要するため、計画的にやっけていかないといけない。令和8年度に第3次支援スキームが終了するが、来年に車両を入れようかという話は時間的にも費用的にも困難なので、次の支援スキームに併せてしっかりと計画していくことが必要である。

委員

しっかりと予防保全という考え方でやっけていくのと併せて、車両の更新も計画的に進めていただきたいと思う。

また、指標6について、100m圏域に生活利便施設を42施設以上立地させましょうという目標だが、現在34施設ということで、まちづくりとの連動がなかなか進みにくいのかなと思うが、事務局から補足説明をいただきたい。目標が少し遠いかなと。

事務局

鉄道駅から半径100m圏内の生活利便施設に限定しており、飲食店がオープンしている実績があるが反映されていない。実質的な賑わいというより病院やスーパー、日用品を購入できる場所等の施設数になっている。人口減少の影響もあり、令和8年度に劇的に増加するかという厳しいと考えている。今後、えちぜん鉄道の利用促進策を検討していく上で、この指標をどうしていくか考えていく必要があると考えている。

委員

施設のカウントの仕方が難しい、伴っていないというジレンマがあるのではないかと

ことだと思うが、この指標に関しては、インフラが生活関連の社会資本ということもあるので、まちづくりとの連動というところを注視していかないといけない。

他に意見がないことを確認し、報告（３）終了。

協議（１）次期支援スキーム、地域公共交通計画等の策定について

えちぜん鉄道

協議事項の資料説明は後ほどだが、弊社から検討の開始にあたってご配慮いただきたい点について説明させていただく。

現在の利用状況については、先ほど説明があった通り、北陸新幹線の開業効果が出ている。昨年度は392万人と過去最高の利用者数だった。今年は開業2年目ということで心配したところもあったが、概ね順調に推移しており、12月末時点で対前年比9万2千人の増となっている。今年の目標は400万人、ぜひ達成したい目標として掲げていたが、その達成も視野に入ってきたという状況になっている。

課題の1つとして、先ほどからご指摘いただいている福井鉄道との相互乗り入れについて、福井鉄道の連携協議会において福井駅を經由しない急行列車を増便する、ハピラインふくいとはほぼ同額になるよう定期券の割引を行うことが報告されており、弊社としても連携協力しながら利用促進を図っていく。

次期支援スキームに関連して、鉄道事業者の使命は輸送の安全確保が第一であり、これまでも福井県及び沿線市町には開業以来、多額の支援をいただき、計画的に設備投資、維持修繕に努めているところである。改めて感謝するとともに、引き続きのご支援をお願いしたい。

弊社の経営状況は、冒頭の勝山市長のあいさつにあったとおり、利用者の増加で運賃収入は増加している。ただ、それ以上に資材価格や労務費、当社の人件費、動力費（電気料）の高騰により、経費も増加している状況で、経営状況は依然として厳しい、これは変わらない状況である。

安定的な運営のために、利用者を増やしていくことは大切だが、運転手を含めて運営する側の人材確保が持続可能性上でも非常に重要な問題になってきたと考えており、必要な賃上げ等を含めた労働環境の改善に取り組んでいく必要がある。

こうした現状を踏まえ、令和9年度以降の次期支援スキームにおきましても、県、沿線市町には引き続きのご支援を、拡充を含めてお願いしたい。また、開業から22年経過し、開業した時点で整備した施設についても老朽化が進んでいる。車両についても、先ほどから話があるとおり、様々な故障が生じている状況で、変電所とか大規模な施設等、更新が先送りになっている施設がある。そういった大規模な設備投資も抱えており、物価高騰によりその費用も増加している状況である。その他、駅舎の老朽化やパークアンドライド駐車場の整備等、お客様の利便性向上を図ることも必要である。

こうした中、国のローカル鉄道支援の枠組みとして、鉄道事業再構築事業があり、これは国庫負担の高上げや支援の拡充等、国の手厚い支援措置を受けることができる。弊社としてこの事業の認定を目指していきたいと考えており、協議会の方で議論をして進めていく必要があるため、今後、関係各位のご理解とご支援をお願いしたい。

委員

ただいまの説明に対し、えちぜん鉄道に支援を行っている県及び市町の方々の考えをお聞きしたい。

委員

えちぜん鉄道とは、常日頃から取締役会等を通じて今後の支援スキームについて情報交換しており、私どもとしては、しっかりと鉄道事業再構築事業を実施させていきたいと思っている。詳細な内容については、今後十分に協議を行う必要があるかと思うが、全般としては、再構築事業を通じて、今後のえちぜん鉄道を沿線の自治体が支えていく、それに対して県にしっかりサポートしていただく、その体制を維持していきたい。

委員

えちぜん鉄道は、本市の中心部と日常生活圏を結ぶ重要な公共交通幹線軸の1つであると認識しており、将来にわたって確保していく必要があると考えている。えちぜん鉄道の努力により、利用者数が増加傾向にあるが、やはり物価高対策や人材確保、先ほどから話題になっております車両を含めた施設の老朽化対策といったものも、今後助長されると想定されるので、継続的な支援は必要になると考えている。しかしながら、沿線市町だけでは人手、財政上の限界もあるため、今後も県においては、これまで以上のご支援をお願いするとともに、えちぜん鉄道においても、国の支援事業等を有効に活用していくようお願いしたい。特に、これからはじまる再構築実施計画の策定においては、鉄道事業者が10年後のあり方をしっかりとお示しいただくのと併せ、利用促進策や行政の支援内容を検討していく必要がある。

委員

えちぜん鉄道は我々沿線市町にとって必要不可欠な公共交通機関であり、将来にわたって存続させていく必要があると考えている。そのためには、利用者数が増えても収益増に繋がらないという側面もあるが、えちぜん鉄道自体の不断の経営努力が必要であるし、我々沿線市町も必要な部分は支援を継続していかないといけないと考えている。ただ、一方で人口減少により我々市町の財政状況が厳しくなっていくと思われるので、県においても同様な状況だと思うが、これまで以上のご支援をいただけるよう、お願いしたい。

委員

当市においても、えちぜん鉄道は大変重要な公共交通機関であると認識している。当市としても今後も継続して支援していきたいと考えているが、県においても引き続きご支援をお願いしたいと考えている。また、地域公共交通計画や鉄道事業再構築実施計画についても、関係者の皆様と協力しながら取組を進めていきたいと考えている。

委員

えちぜん鉄道は、住民に必要な鉄道であり、嶺北地方の主要な観光地を結ぶ大切な移動手段になっている。そういったこともあり、開業当初からえちぜん鉄道、沿線自治体、住民が三位一体となって利用促進を続け、盛り上げてきた鉄道である。町、住民としてもしっかりとサポートしていきたいと考えており、今後10年間の次期スキームにおいては、今物価高騰等、色々な課題があるので、しっかり住民の方に説明できる形で協議して決めていきたいと思っている。また、沿線自治体だけではなかなか大変なところもあるので、やはり県のしっかりとしたサポートもお願いしたいと思う。

委員

えちぜん鉄道の様々な効果的で積極的な取組を紹介いただきありがとうございます。

先ほどから紹介されていた福井鉄道との相互乗り入れなど、地域鉄道1社単体ではなかなかうまくいかないというか、連携が必要であると思う。福井鉄道、ハピラインふくい、それぞれの駅に接続するバス、ご近所タクシーの紹介がありました。公共ライドシェア、デマンド、こういった全てを含めて連携することが大事である。それをコーディネートし結んでいくのが県の大きな役割かと思うので、大きい観点でもぜひやらせていただきたい。

また、これまでの支援の継続と鉄道事業再構築事業、これらの協力についても、もちろん考えていきますので、一緒にやっていきたい。

えちぜん鉄道

県及び沿線市町の皆様から、力強いお言葉をいただき、本当にありがとうございます。

それぞれの財政状況も厳しい中で、私どもとしても利用促進のための経営努力は最大限行っていこうと思いますし、それでも難しい場合については、お客様負担にはなるが、運賃の値上げを含めて全体のバランスを取りながらやっていく。再構築事業は10年間ということで、10年後の人口減少の状況等、考え出すと非常に辛いところもあるが、現在新幹線開業効果で上向いていることもあるので、伸ばせるところを着実に伸ばし、さらに未開拓の部分をどう開拓できるか、そういったことも含めて進めていきたい。

事務局より資料説明（協議（1）資料参照）

委員

事務局から考え方や今後のスケジュール、体制等の説明があり、スケジュール的に非常にタイトであるが、しっかり議論して計画に反映していきたいと思います。

他に意見がないことを確認し、協議（1）終了。

議案（１）規約の改正について

事務局より説明（議案（１）参照）

委員

鉄道事業再構築実施計画を作成するにあたり、改定が必要になるということである。質問がないようなので、議案（１）規約の改正について、原案のとおり可決することにご異議はございませんでしょうか。

異議なしということで、議案（１）規約の改正については原案どおり可決されました。

他に意見がないことを確認し、議案（１） 終了。

連絡（１）令和７年度事業報告・決算報告、令和８年度事業計画

・収支予算（案）に関する書面協議について

事務局より説明

委員

年度当初に実施している書面決議の依頼と来年度は地域公共交通計画の策定のため、決議前に事業に着手するということだが、協議（１）で説明があったとおり、タイトなスケジュールということを考えて、判断は事務局一任とさせていただいてよろしいか。

他に意見がないことを確認し、その他 終了。

閉会